

札幌市) 加藤 龍子

東京都) 菊地 一彦

ふるさとの炭」で秋の仕上がりであるの店」だけに、店の二句。昨日見た雲が好きなのだ。

福岡市) 赤坂 邦子
こほろぎの麓の先まで鳴いてをり
(熊本県菊陽町) 井芹眞一郎

評

一句目。水面には映らないが直接見る楓は紅葉が始まっている。いつ頃水に映るのか想像してみる。二句目。子や孫が帰った後の老夫婦。残された手花火をやってみる名残り。三句目。健康を取り戻した作者の第二の人生を応援。

東京都) 芳村 翡翠
裸富士われも行けそう目を凝らす
(栗原市) 小野寺 實

評

大谷氏。岩山で出会った流れ星への個人的な感応。酒井氏。報告の句だが、じつに懐かしい。峠谷氏。孤独の人。十句目小野寺氏。「裸富士」には季語「裸」の生々しさがあって、中七下五の親しげな感応がよく伝わる。

千葉県酒々井町) 市村 孝子
何の日でもないが夕食栗お強
(群馬県板倉町) 岡部いずみ

評

一席。宇陀(奈良県)の入り口あたりだろうか。「乙女の武者」どは勇ましく、かつ晴れやか。二席。明月の夜、声も洩れんばかりに鳴く一匹の虫。一匹の風狂。三席。威勢良く炎をあげる秋刀魚。炭にしてしまわないように。



〈ロックフェラー・センターの竜巻〉篠原乃り子
2014年10月6日(月)朝日新聞朝刊9面

うたをよむ

韓国と日本をつなぐ

大田 美和

先頃、韓国カトリック大学が日本と台湾の大学に英語で提供する合同授業があり、勤務校の学生たちをソウルに引率した。多くの学生が家族に「日韓関係が悪くなっているのに大丈夫?」と心配されていた。

ともかくも来て見てごらんウェブサイトのぴかぴか光る語に騙されず
韓国と言えば亡き師・近藤芳美が韓国の作曲家尹伊桑の演奏会と講演に参加した時の歌を思い出さずにはいられない。
打ちとよむ打楽器をもて告ぐるものを
吾には朝鮮の記憶の痛み 近藤芳美
植民地であった朝鮮半島に生まれ、戦後、リベラリストとして歌壇を牽引した近藤芳美と尹伊桑の対談が、もしも実現

していたら、アジアの民主化と平和について何が語られただろうか。
非常勤先の大学で知った詩人尹東柱、朝鮮学校無償化除外に反対する詩人の運動に参加して覚えた「ウリハッキョ」(私たちの学校)などの朝鮮語、フクシマを撮影した鄭周河の写真展「奪われた野にも春は来るか」……。韓流は終わった」と言われても、私の中の朝鮮半島への興味と平和への願いは大きくなるばかりだ。
異国母国を超えてはばたく鳥でしょうふたつの言語を両翼として 野樹かずみ (歌人・中央大学文学部教授)

● 永田和宏 選

● 馬場あき子 選

● 佐佐木幸綱 選

〆いたい ビジネ
大阪市) 安良田梨湖
につこり王子の這
東京都) 夏目たかし
問にかキャンペー
横浜市) 森 秀人
の青き楢門が翳
収手市) 近藤美恵子
不寿を過ぎてコー
八戸市) 安倍 淑子
から鴉は猫の骸見
熊本市) 垣野俊一郎

動物園爬虫類館の裏口に飼はれてをりし蟋蟀数多
(広島市) 楢田 順子
元氣なりハキタメギクもボロギクもヘクソカズ
うもこの爺さんも (東京都) 大村 森美
十五年戦争を阻止できなかった人たちと同じ立場に今私はいる
(狛江市) 相馬 里子
敵艦の撃沈映る新聞を大切に仕舞いし軍国少年
(高松市) 菰刈 昭
戦争を知らぬ首相を危ぶむが戦争なんか知らぬが一番
(愛知県) 増田 辰治
ナナカマドどんな悲しみ積み重ね赤き実となる
キエフの町よ (高崎市) 門倉まさる

土手の草刈れば鳩きて草の実をついばむ秋晴れ
ゆつたりと雲 (摂津市) 内山 豊子
大きめの麦藁帽子に包まれて笑顔は深きかげの
うちなる (館林市) 阿部 芳夫
丁寧化粧塩つけ焼かれある魚の目より光るもの
の垂る (石川県) 龍上 裕幸
そこはかとなき威圧感滲ませて秋の埠頭にイー
ジス艦濃し (舞鶴市) 吉富 憲治
☆紫蘇好きのオンパツタの穴あけし紫蘇に花咲
きはのかに香る (松戸市) 猪野 富子
この夏は自分のことを「ボク」と呼ぶ彼女を連れてはじめての海
(筑後市) 近藤 史紀

店の名は「とんび」「鷹」「百舌」「紅孔雀」
鳥に喰はるる酔客われら (西条市) 村上 敏之
炎天下六地藏まへの蛾燭は溶けて倒れて「への
へのもへじ」 (香川県) 藤井 哲夫
天災に人災に負け妻に負けおろろ歩く昭和・平成
(いわき市) 馬目 弘平
点字読む指の速さに敵しさを生き抜く人の誇りあふる
(神戸市) 福家 博子
信号が点滅すれば走ってたい気持ちは廻らない
(東京都) 上田 結香
眠気から眠りに落ちるそのあいだユーモレスクの空港がある
(神奈川県) 九螺ささる

『子育てをうたう』 小さないの
っブ写真のように詠まれた名歌
書店・本体1300円)

☆印は共選作。掲載作は本社電子メディアに収録
します。投稿は無地のはがき1枚に1作品、未発
表の自作のみ。作品の横に住所、氏名、電話番号
を明記。あて先は〒104・8661 晴海郵便局私書
300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇
へ。選者が添削する場合があります。